

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年12月2日 (2010.12.2)

【公表番号】特表2005-533751 (P2005-533751A)

【公表日】平成17年11月10日 (2005.11.10)

【年通号数】公開・登録公報2005-044

【出願番号】特願2003-577859 (P2003-577859)

【国際特許分類】

A 6 1 K	9/18	(2006.01)
A 6 1 K	9/20	(2006.01)
A 6 1 K	9/48	(2006.01)
A 6 1 K	31/216	(2006.01)
A 6 1 K	31/4184	(2006.01)
A 6 1 K	47/04	(2006.01)
A 6 1 K	47/34	(2006.01)
A 6 1 K	47/36	(2006.01)
A 6 1 K	47/38	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/04	(2006.01)
A 6 1 P	29/00	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
B 0 1 J	2/00	(2006.01)
B 0 1 J	2/20	(2006.01)
B 0 1 J	2/22	(2006.01)
B 0 1 J	20/04	(2006.01)
B 0 1 J	20/24	(2006.01)
B 0 1 J	20/28	(2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K	9/18	
A 6 1 K	9/20	
A 6 1 K	9/48	
A 6 1 K	31/216	
A 6 1 K	31/4184	
A 6 1 K	47/04	
A 6 1 K	47/34	
A 6 1 K	47/36	
A 6 1 K	47/38	
A 6 1 P	25/00	
A 6 1 P	25/04	
A 6 1 P	29/00	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 P	43/00	1 2 3
B 0 1 J	2/00	A
B 0 1 J	2/00	B
B 0 1 J	2/20	
B 0 1 J	2/22	
B 0 1 J	20/04	A
B 0 1 J	20/24	B
B 0 1 J	20/28	Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年7月30日(2010.7.30)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0030

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0030】

NO - 供与NSAIDを吸収し、活性薬物を薬物送達組成物中に保持するために用いられる多孔性粒子の材料は、たとえば商品名Florite（登録商標）として知られているケイ酸カルシウム、たとえば商品名Fujicalin（登録商標）として知られている二塩基性無水リン酸カルシウム、たとえば商品名Neusilin（登録商標）として知られているアルミノメタケイ酸マグネシウムおよび微結晶セルロースのような材料から選択される。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0087

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0087】

実施例には、以下の多孔性材料、すなわちケイ酸カルシウム、無水二塩基リン酸カルシウム（Fujicalin - 登録商標）およびアルミノメタケイ酸マグネシウム（Neusilin - 登録商標）が使用された。

実施例においては、以下の界面活性剤が使用された。すなわち、Poloxamer 237（Pluronic F87 - 登録商標）およびPoloxamer 338（Pluronic F108 - 登録商標）である。

実施例では以下の微結晶セルロース：アビセル（登録商標）pH 102が使用された。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0122

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0122】

NO - 供与NSAID 2種以上からなる組成物の実験

実験は式I gの化合物および式I aの化合物を1または2種以上の界面活性剤と混合してなる組成物について実施した。式I gの化合物は以下に述べる組成物Pを混合することにより作成した。

P：式I gの化合物 / Fujicalin（登録商標）1/2

式I gの化合物 3 g

Fujicalin（登録商標）6 g

式I aの化合物と界面活性剤の混合物を、界面活性剤および活性薬物を60で粉砕機中乳棒を用いて熔融、混合することにより調製した。

Q：式I aの化合物 / Pluronic F87（登録商標）1/0.3

式I aの化合物 3.08 g

Pluronic F87（登録商標）0.92 g

式I aの化合物からなる自由に流動する粉末は、上述の混合物（Q）を、60で粉砕機中乳棒を用いて多孔性粒子に添加することにより調製した。